

メダカ メダカ科

メダカの泳ぐ水辺は、私達が自然とともにくらししてきた田園地帯のなつかしい風景です。日本にいる淡水魚類の中では、最も小型ですが繁殖力の強い魚です。しかし近年、池や水路のうめ立て、コンクリート化や、ブラックバス・ブルーギルなどの外国からはいつてきた魚に食べられたりして数が減ってきています。



写真提供：山本邦彦氏

形態・生態

大きな両目の間は平らで広く、口が上向きになっています。腹びれの位置は胸びれよりも後ろにあり、背びれは体の後の方にあります。

メダカは春、水温が上がると泳ぎだし、卵を1回に20～30コほど産みます。卵は2週間ほどでふ化し、約4ヶ月で4cmほどのおとなの魚になり、冬の間はドロの中ですごします。ミジンコなどの動物性プランクトンを食べています。

調べやすい時期

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|----|----|----|---|---|---|
| 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
| 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 |

県内の分布

県内のメダカの分布を平成3年から8年にかけて調査した結果、右図のとおり、小松市や河北潟周辺、七尾市、能登島、内浦などで見つかっています。

平成3～8年に調査した結果

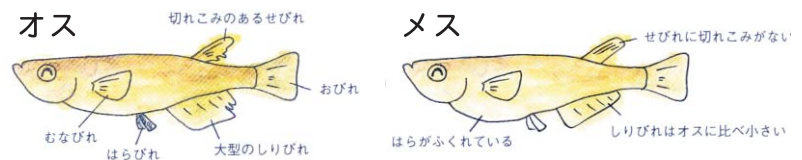
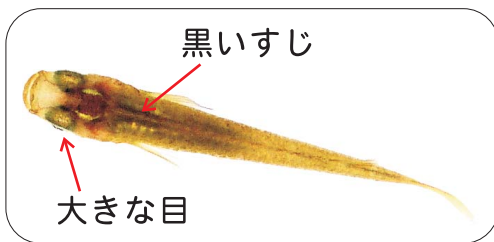


(「石川県メダカ復活プロジェクト」パンフレットなどより)

見分け方のポイント

河川下流の流れのゆるい小川や、ため池、水路、水田の中やみぞなどにすんでいます。

背中には頭から尾にかけて黒いすじがあるのが特ちょうです。



(「石川県メダカ復活プロジェクト」パンフレットより)

まちがしやすい種類

- 川の中流などにいるウグイやハヤなどの稚魚と間ちがしやすいのですが、メダカはとても大きな目をしており、背中には黒いすじがあるので、よく観察をしましょう。
- 日本にはメダカによく似た種類で外国からはいつてきた「カダヤシ」がいますが、石川県内では今のところ見つかっていません。